

金融機関、地域に還元

にぎわい拠点整備広がる

地方銀行や信用金庫が、まちのにぎわいにつながる施設を整備して、地域とのつながりを広げようとしている。岐阜信用金庫は15日、岐阜市の中心市街地ににぎわい交流拠点を整備すると発表。人口減少などで、金融機関を取り巻く経営環境は変化しており、地域貢献の動きを強めている。

にぎわい交流拠点到金融機関の窓口業務はなく、人々が気軽に立ち寄れるパブリックな空間を造ることで、持続可能な地域づくりに貢献するのが狙い。担当者「新たな価値を地域に還元したい」と語る。

十六フィナンシャルグループ(FG)は市役所旧本庁舎跡地に市民の利用でき

る共有空間を備えたビルを建設する。池田直樹社長は「まちづくりの一助を担うことが、ひいてはわれわれ自身の成長や発展につながると考えた」と説明する。

大垣共立銀行は4月、同市の再開発ビル柳ヶ瀬グラッスル35に、新店舗「OKB岐阜中央プラザわくわくベースG」を開設。境敏幸頭取は「さまざまなコミュニティづくりに挑戦し、新しい価値を創造する場所にしたい」と意気込む。

まちづくりに関わる市の幹部は「街中でいかに時間を消費してもらうかをテーマにしており、魅力的なコンテンツが増えるのはいいこと。官民でまちを盛り上げたい」と話している。